

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700308		
法人名	(株)マウントバード		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	千葉県佐倉市西志津7-14-3		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>落ち着いて、気持ちよく過ごせる生活空間を提供しています。ご利用者様とご家族の思いに寄り添い満足頂ける施設を目指しています。 ご利用者様や職員の笑い声が溢れる施設が理想です。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>調理の下拵え、盛り付け、後片付け、掃除、洗濯物たみを利用者と職員が一緒におこなっている。持てる力を活かす良い取り組みである。食材は職員が買い出し、利用者の好みに応じて献立を考え、提供している。行事食も正月、ひな祭り、クリスマスなど季節ごとに企画している。おやつ作りを一緒におこなうこともある。訪問診療を月2回、訪問看護を週1回利用して健康管理をしている。希望者には訪問歯科もある。風呂は週2回、ゆず湯などを楽しんでいる。感染防止で外出を控え、室内での体操やレクリエーションに力を入れて身体機能の維持・向上に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立と愛という事業所理念にのみに、自立支援に力を入れている。	達成したい目標を月1回のフロア会議で話し合っている。自立支援、家庭的な雰囲気づくりなど、自分が入りたいと思うホームを目指している。職員は認知症利用者の訴えに耳を傾け、言葉を丁寧に選んで話をしている。	職員全員が理念を理解し、具体化するまでには至っていない。理念のさらなる周知・徹底を継続していくことが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近年、コロナの為、地域との交流は出来ていません。	令和3年4月のオープン時、近隣住民を招いて内覧会をおこない、ホームへの理解を深めた。散歩の際には声をかけ合い、近隣住民との交流を図っている。また、地域の入居希望者の相談を受けている。	コロナ禍での開設でもあり、積極的な交流までには至っていない。収束に伴い、町内会参加、民生委員との連携など、より関係性を深めていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年、コロナの為、認知症の理解や支援の方法を地域に生かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、議題を決め書面開催をしています。	今年度は書面での報告としている。報告先は民生委員、地域包括支援センター担当者である。事前にファックスで意見や質問を貰い、回答を記載した議事録を送っている。	利用者家族や近隣代表など、参加者の幅をさらに広げることも検討されたい。議事録は利用者家族にも送付し、全職員が回覧するなど、より一層の周知が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	抗原検査等、市から配布されるものに対して感謝して、施設の現状を伝えています。	介護保険について、市の高齢者福祉課に相談している。地域包括支援センターには運営推進会議を通じて意見をもらっている。今後は介護相談員の受け入れを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 玄関の施錠をしない等	「身体的拘束適正化のための指針」を策定し、年2回の研修で職員に周知している。身体的拘束適正化検討委員会は3か月に1回開催している。スピーチロックは管理者が日々目配りし、職員に注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会があり会議の度に虐待の事について話し合っている。相互確認をして、虐待防止に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの関係で、研修がない状態で学習の機会がない状態です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、解約等の説明は十分にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族の意見はその都度お聞きしています。 コロナ収束後、家族会開催したいと考えています。	家族からの意見や要望は、通常の面会や介護計画の策定・変更時などに、電話や面談で聞いている。面会の要望が多いことを受けて、WEB上でのオンライン面会を実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者様やご家族の意見は都度お聞きしています。 コロナ収束後、家族会開催したいと考えています。	フロア会議のほか、日常的にも管理者が話を聞いている。職員が活発に意見を出し合い、レクリエーションの担当者を決めて充実を図った事例がある。休みの希望に沿い、管理者が調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担にならないように残業のないように、希望休は取れるように、楽しい職場作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部の研修に参加していく予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者と月一程度の会議を行い、交流を持ち、事業所の問題点を話し合い、大切な事を持ち帰り職員と話し合いをします。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に聞いています。不安、要望を話し合いにより解決して良い関係を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞いて、解決するよう努めています。それにより家族との関係が良好なものになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なものを注視して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人的に話したり、レク等を通じて仲間意識ができ良い関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご利用者様の現状をお伝えしています。必要に応じて面会に来て頂き、相談して一番良い方法を考えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係で、出来ていません。	年賀状が届いた利用者には、返事の電話のサポートをしている。利用者家族が友人を連れて面会に来ることもある。理美容院は2カ月に1回、ホームを訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良くなれるよう職員が中に入り会話を楽しんだり、レクをしています。ご利用者様の間に信頼関係が生まれています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は死亡時が多い為、その後の連絡はしていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に聞いて、なるべく希望に沿うように努力しています。	日々の会話や表情、仕草などから利用者の思いや意向をくみ取っている。寒いと繰り返す認知症利用者に寄り添って原因を探り、夜間の寝具を取り換えることで、問題解決した事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を読み返し状況把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で日々の変化を話し合い、ご利用者様の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の関係者と話し合い意見を出し合い現状にそくした介護計画を作成しています。	毎月のフロア会議において、職員から提起された利用者のカンファレンスをおこなっている。モニタリング、計画の見直しは、利用者、家族、訪問診療医、訪問看護師の意見も反映している。見直しは半年に一度、変化があれば随時におこなう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活上の変化、気づき、工夫を個別に記入して、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様により必要とするサービスを柔軟に取り入れています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の先生と相談して、最適な医療、薬を提供できるように支援しています。	月2回の訪問診療、週1回の訪問看護で利用者の健康管理をしている。専門医を外来受診することもできる。通院は家族対応だが、難しい場合はホーム職員が同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にご利用者様の病気や状態を把握してもらい相談することにより適切な看護を受けられるように、支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、訪問診療の先生から診療情報提供書を書いて頂き、退院時にご利用者様の状況を教えて頂く等して、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にご本人ご家族の希望に沿って事業所の出来ることを取り組んでいます。	重度化、終末期の説明は医師から家族へおこなっている。開設2年の新しいホームだが、看取りの事例は多く、利用者・家族に寄り添う支援ができています。経験の浅い職員に、ベテラン職員が看取りの指導をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応について、職員の訓練をしていかねばならないと考えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年2回実施しています。	年2回、防火管理者が主体になり、消火訓練、避難訓練を実施している。今後は、夜間想定訓練を予定している。	災害時備蓄食料、停電時の備品などの一覧表作成が求められる。また事業継続計画(BCP)を策定することも期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いをする事を、会議の時に話しています。全般的に対応できています。	プライバシーを損なわない対応について、フロア会議で管理者から説明をしている。排泄、入浴、入室時の配慮について職員間で共有している。個人情報管理、写真の掲載なども規定に沿っておこなわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう誘導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にしたいと考えていますが、集団生活の為できない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器を下げるなどの手伝いをして頂いています。	食材調達や調理は職員が交替でおこない。利用者は野菜の皮むき、盛り付けをしている。正月、ひな祭り、クリスマスには、料理の得意な職員が行事食を担当する。おやつも白玉やホットケーキを手作りして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量(目標)を決めている。目標に届かない人には、工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレ利用で、排泄を考えています。 時間で声掛けをして、トイレ誘導をしています。	排泄チェック表を職員間で共有し、個別のタイミングに沿ってトイレ誘導をしている。排泄の自立に繋げるよう意識をして支援している。夜間は、安眠を優先し、無理なトイレ誘導はおこなっていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない日数により薬で対応しています。(先生の指示)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望は聞いていません。 丁寧な入浴対応をしています。	週2回の入浴を基本とし、体調に応じて、曜日や時間を柔軟に変更している。入浴剤やゆず湯などで楽しい雰囲気になっている。浴室にリフトがあり、介護度の重い利用者も湯船に入ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本煮の希望に沿っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬表を確認できるようになっています。随時確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用様により、出来る事が違うので、なるべくその人に合った物を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出出来ない為、日向ぼっこをしたり、面会に来て頂いています。	感染対策で、遠方への外出や、買い物、外食は自粛している。周辺の散歩や公園、ホームのベランダで日光浴を楽しんでいる。散歩時には、近隣の住民と挨拶を交わして、地域との関わりを深めるように努めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人で所有していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したいと希望があれば電話をして頂いています。家族からの電話はご本人に代わり話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の光が入るように工夫をしています。明るい施設づくりをしています。	季節を感じられる鉢植えや花を飾っている。リビングは日当たりがよく、職員と利用者でとてきれいに掃除されていた。なるべくリビングに出てきてもらうため、ソファを置き、ゆったり過ごせるよう工夫している。定期的に換気し、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は、自室に行かれます。ご自分の部屋にお友達を呼んで、お話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使い慣れたものを持って頂き、自室を安らぎの空間にしています。	カーテンは好みのものを取り付け、家具やテレビなども思い思いに持ち込んで、その人らしい部屋作りをしている。思い出の写真、位牌を飾り、毎日お供えをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を第一に考えて、すべての事に自立できるよう配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと